▲▼▲第61回クリエイティブサロン（2019年 12月13日）開催報告▲▼▲

第１部講演会：みんなの教育：スウェーデンの「人を育てる」国家戦略

講師：西浦和樹氏
宮城学院女子大学教授
日本創造学会理事

世界最高水準の国際競争力は、スウェーデンの人を育てる仕組み、すなわち「教育」にあると考え、10年以上かかわってきました。日本でも自主性を重んじる教育の必要性が唱えられるようになってきましたが、あくまで教育は学校の中で行われるものであって、実社会とは「分けて」考えるのが日本では一般的です。しかし、学校と実社会を「分けない」ことで、将来の社会に活力を与える人材を作っていこうとするのが、スウェーデン流です。

本講演では、「就学前からの起業家精神教育」「アウトドア教育とアクティブラーニング」「幅広いインクルーシブ教育」「投票率85％の国の主権者教育」「人生100年時代のリカレント教育と生涯教育」といった話題提供を行いました。幼児教育に関しては、3つの柱となる資質・能力の育成が求められています。ところが、現場の先生方にとっては、保育活動がベースになっていないので、保育要領と保育活動の接点が見出しにくくなっています。これでは、教育の質を向上させることができません。スウェーデンでは、学習者（アントレプレナー）を中心に据えて、学習目標を柔軟に修正・アップデートできる未来潮流を取り入れる仕組みが作られています。具体的には、デジタル社会の危険性に警鐘を促し、アナログな変化に気づく感性を育てようとするアウトドア教育です。それによって、「生きる力」から「生きる喜び」を育てるモチベーション教育の試みがなされています。もちろん、2018年に改訂されたスウェーデンの保育要領では、「デジタルリテラシー」をキーワードとした実践もなされています。スウェーデンの教育が大切にしていることに、「子どもの権利」があります。なぜ子どもの権利が大切にされるのでしょうか。この質問に対する答えは明確で、子どもの環境を整えることができるのは大人しかいない。その子どもは実際に政治参加できない。したがって、大人が子どもを守るべきである、という合理的な結論が導かれます。その結果、スウェーデンの投票率は85％以上で、国民の意識の高さがうかがえます。
日本が本当の意味で質の高い教育を実現することができるよう、スウェーデンの教育から学び、持続可能な教育システムへの転換が必要な時期に差し掛かっているのではないでしょうか。　（記事：西浦和樹）

第2部講演会：　全国に拡がる教育による地域活性化と高校魅力化プロジェクト～鍵となるPBL/STEAM教育～

講師：藤岡慎二氏
株式会社Prima Pinguino　代表取締役
北陸大学経済経営学部　教授

全国の離島中山間地域で教育を通じた地域の活性化として、「高校魅力化プロジェクト」が拡大しています。その地域における高校の有無が子育て世代の移住定住・UIターンなどに影響し、地域の衰退に関連すると言われているからです。島根県立隠岐島前高校プロジェクトをきっかけとして、全国で魅力化プロジェクトが始まっています。離島で始まった高校魅力化プロジェクトは、今は文科省や内閣府の地方創生政策の一環となりました。一見順調なような魅力化プロジェクトですが、財源や人材の確保や自治体をいかに巻き込んでいくか、など様々な問題があります。

このワークショップでは、持続的な魅力化プロジェクトの発展をいかに仕掛けていくのかについて議論することを目指しました。当日は、講師の方から高校魅力化プロジェクトに関して１時間ほど情報提供を行いました。高校魅力化プロジェクトが始まった背景、意義、地域活性化に与える影響、全国での高校の事例などについて話した後、地域みらい留学をテーマにワークショップを実施しました。まずこの発表を通じて抱いた感想を隣の人と意見交換しました（バズセッション）。その後、地方の高校魅力化の状況を鑑みて以下の観点で意見をブレストし、KJ法でまとめました。
Keep：良いこと、このまますると良いこと
Problem：問題だと思うこと、放っておけないこと
Try：今後にすべきこと、解決策
その上で、地域みらい留学以外の留学名を考える課題について考えていただきました。ブレインストーミングやKJ法に慣れている創造学会の会員ゆえに、ワークショップは盛り上がった様に思えました。留学の名前も奇抜なものや突飛なアイディアが出たが、創造とは多産多死であるがゆえに、意見を発散して出していく会員の姿に流石だと感じた次第です。　（記事：藤岡慎二）